

寄稿文

# 堂垣内尚弘先生の足跡を訪ねて (i)

## — 月形橋 —

道路情報館

技術士 (建設部門)

真田英夫

### はじめに

道路情報館では、堂垣内正弘氏、北海道開発局、北海道道路史調査会、堂垣内研究所、関係諸兄より寄贈いただいた堂垣内先生の資料1,631点を保管しています。

保管資料は、先生の著書、原稿、写真集、土木設計・施工に関する貴重な記録であり、そのなかから昭和20年代初期に架橋された月形橋について紹介いたします。

### 月形橋

月形市街と北村を結ぶ峰延道路 (現道々275号線) は、明治22年、囚徒により建設された道路で、石狩川の横断は渡船場が設けられ月形と北村を結んでいた。

月形橋は不便な渡船を解消し交通と地域の開発を促進するため旧石狩川大曲に計画された橋である。現場は昭和20年～22年に木造トラス橋を二度建設したが、石狩川の流水で二度とも落橋し、三度目の

架橋責任者として堂垣内先生が任じられた。現地を検討した結果、吊橋で架橋することに決定したが、終戦直後で資材不足のため木製吊橋で架橋した。

主材となる木材は定山溪から木炭トラックで運搬し、ボルトなどの小資材はリュックサックで背負い汽車で運んだと記されている。

### 橋梁概要

- 1) 橋脚・タワー 木製
- 2) 補剛トラス 鋼製
- 3) 橋長

原設計  $17.00 + 95.00 + 45.00 = 157.00$  m

実施設計  $15.00 + 95.00 + 20.00 = 130.00$  m

- 4) 工期 昭和22年4月～23年5月

### 建設時

昭和22年4月工事に着手した。施工監督は、堂垣内先生、近間技官、高橋技官、石田技官 (著書による) が担当し現場に近い佐野家を宿舎とした。

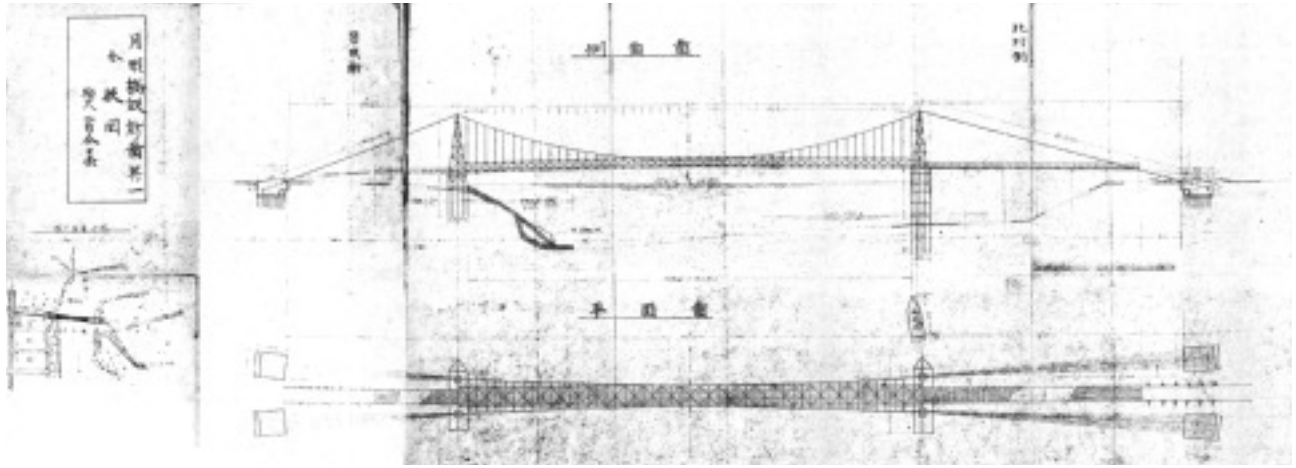
当時の様子を鈴木元町長からお聞きした (H



昭和32年 (国土地理院 5万分の1図)



竣工した月形橋 昭和23年5月



月形橋全般図

18.6)。

「月形橋は自分らも出面で行ってやったんですよ。人なんか戦地にいったままですぐにはさっぱり居なかったですよ。18mの塔を立ち上げるとき神楽棧で‘ぼっこ’をくるくる回して丸太を吊あげました。ワイヤーの接続がうまく行かなくて監督さんこれダメだべさっていったら、“何でもない、計算した”って。でもだめで溶接した記憶がありますよ。

毎日朝早くから現場で一人で点検していましたよ、本当に熱心に監督をしていました。

落成式の時、花火を10発くらい揚げました。その後、毎年月形の公園で夏の花火大会をやっているが、ああゆう大きな落成式でないさね。知事を退任してから月形にこられたときに“先生から何にも色紙一枚もらってないよ”“そうだったかい。やったつもりだった”って。後日、立派な額縁に入ったのを贈っていただきました。」

## 設 計

設計計算、図面作成を担当した方は下記である。

- ・堂垣内尚弘……橋脚、タワー、アンカー、
- ・中島 猛……補助
- ・馬場 嘉郎……補剛トラス

設計計算書、図面は北大名誉教授吉町太郎一先生がチェックされ朱の入っ

た計算書を吉町先生の令孫吉町晃一氏より、平成15年堂垣内先生に贈呈された。



設計計算書

## 月形橋の竣工

月形橋は昭和23年5月17日に竣工した。

当日の様様を熊谷正吉氏（月形町



建設中の月形橋（右から二人目が堂垣内先生）



現在の月形橋跡地（ニレの木の右側に北村側の橋台があった）



月形樺戸博物館の吊橋

郷土史研究会会長）から話して頂いた。（H 18.6）

「月形橋の落成式の際は新聞記者がたいした来たんですよ。祝賀会は月形小学校の今の体育館でね、あそこでやったんですよ。新聞社が記者とカメラマンとで来たので座れる席がなくなって、議長さんだけ残して村会議員さん18～22名かな皆んな立ってもらって接待に回ってもらいました。もう大騒ぎでした。花火を揚げたりいや本当に町民の喜びったらもう最高でした。」

いまま夏の花火大会が毎年月形公園で行われ、当時を思い出しますと語った。

#### おわりに

石狩川本流の切り替えが遅れ、1～2年持てばよいとされた月形橋はその後6年余も供用されたが、昭和29年11月にトラックの過載荷重により落下し、昭和31年新たに鋼製吊橋が架けられた。月形樺戸博物館には、昭和23年の完成したばかりの月形橋の写真が掲げられている。

案内して頂いた熊谷会長さんは、「堂垣内先生に対する月形町の感謝の気持ちを吊橋の形で残しました。」と説明して写真前の歩路の小さな吊橋を示された。